

**RIVER**  
RIVER ELETEC CORPORATION

**第61期中間事業報告書**

2005年4月1日～2005年9月30日

リバーエレクトック株式会社

# 小型水晶デバイスの開発・製造を通じ、 **One and Only Creator**として 社会に貢献してまいります。

水晶デバイスは、「電子産業の塩」とも形容され、電子機器に無くてはならない部品として数多く使用されています。リバーエレテックは、水晶デバイスの中でも水晶振動子・水晶発振器を主に手掛けています。

当社の特徴として、水晶振動子・水晶発振器の中でも表面実装型（SMDタイプ）に特化してきたことが挙げられます。電子機器の小型化・多機能化が進むにつれ、内蔵される電子部品もより小型化・高性能化が要求されるようになってきました。これに対し、当社は独自の技術で製品の小型化と高性能化に挑戦してまいりました。現在、当社の子水晶振動子ラ

インナップ中で最小のものは2.0×1.6×0.5ミリという大きさで、業界最小を自負しています。当社の技術は電子機器の部品として内包されるものであるため、一般の方々が製品を直接見る機会はほとんどありません。しかし、皆様の快適なデジタルライフを陰ながら支えているのです。

当社は新たに「One and Only Creator」をキャッチフレーズとして掲げました。お客様の満足により高いレベルでお応えするため、社員の一人ひとりが独創的発想を持ち、新たな価値を創造すべく、誠心誠意努力してまいります。



他に、無線通信機器、オーディオ関連、医療機器、デジタルビデオカメラ、ゲーム機など、ほとんどの電子機器に使われています。



※製品写真は、ほぼ原寸大です。

減収減益の厳しい業績でしたが、  
新製品の更なる拡販と原価低減に取り組み  
収益の回復を図っていきます。



代表取締役社長  
**若尾 富士男**

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。また、平素は格別のご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。2006年3月期中間期を終了いたしましたので、ここに第61期中間事業報告書をお届けするにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

始めに、当中間期の連結業績をご報告いたします。売上高3,750百万円（前年同期比3%減）、営業利益30百万円（前年同期比90%減）、経常利益89百万円（前年同期比72%減）となり、減収減益の厳しい業績となりました。また当中間純損益においては、「固定資産の減損に係る会計基準」の適用に伴う特別損失が56百万円発生したこともあり、遺憾ながら4百万円の損失を計上いたしました。

これに伴い、期末計画について検討を重ねた結果、

修正を加えさせていただくこととなりました。何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

今期の日本経済は緩やかな回復傾向が続き、当社の属するエレクトロニクス業界も概ね好調を維持しました。当社においても、Bluetoothや無線LANを始めとする近距離無線向けのような新たな分野に向けた水晶デバイスの受注が好調で、売上および利益に貢献しました。しかし、プロダクトミックスの変化により当初利益を見込んでいた製品の売上が伸び悩み、加えて販売数量の多い製品の単価下落が大きかったこともあり、利益を圧迫する結果となりました。下期に向けては、新製品の更なる拡販によるプロダクトミックスの改善と原価低減に精力的に取り組み、収益の回復を図っていく所存であります。

当社では、お客様の視点に立ったモノづくりを継続し、ご要望により高いレベルでお応えできるよう全社一丸となって努力してまいります。株主の皆様におかれましては、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

### The River Spirit

世界の人々に快適なデジタル・コミュニケーションを提供します。

社 是		
良く	安く	早く
経営理念		
源流	創価	革新

### ■セグメント別売上高・利益概況

今中間期におけるセグメント別売上高の割合は、水晶製品92%、抵抗器4%、インダクタ2%、その他1%となっております。

前期末においては水晶製品の売上高割合は79%であったため、水晶製品への集中が一層進んだこととなります。これは、前期の売上高割合で10%を占めていたリチウムコイン電池の生産を前期末時点で終了し、その分の売上高を水晶製品にて補っていくという方針によるものであります。このため、水晶製品の売上高は前年同期比で14%増加しております。しかし、水晶製品の営業利益率は13%となり、21%であった前期末より悪化しております。これは、販売価格の下落や利益率の高い小型水晶製品の販売数量が伸び悩んだことが主要因となっております。また、他セグメントの売上高は全て減少となっております（抵抗器・前年同期比31%減少、インダクタ・同30%減少、その他・22%減少）。

下期以降も水晶製品への集中を進めていき、水晶製品の使用分野の拡大と新規販売先の開拓に注力し、また製品ラインナップの充実を図り、業績改善を図ってまいります。

### ■水晶製品用途別売上概況

今中間期における最大の変化は、デジタルスチルカメラ向け割合が減少し、無線モジュールの割合が大きく増加したことが挙げられます。前期の実績ではデジタルスチルカメラとデジタルビデオカメラを合わせた割合が4割を超えていました。しかし今中間期では、合わせて3割程度となっております。これを補う形で増加した無線モジュールは、携帯電話へのBluetooth搭載が急速に広まっていることが割合増加の主要因であります。その結果、前期末実績割合は6%でしたが、今中間期においては16%まで増加しました。下半期以降も割合増加が予想され、通期では20%に近づくと予想しております。また、他に増加した分野としてTV向けがあります。これは、普及しつつある液晶TV、プラズマTVの増加に起因するものであります。

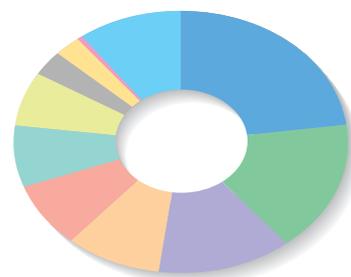
用途別売上の平準化を図る中、特定分野への集中が少なくなり、また新たに無線モジュール向けという販売の柱になる分野が成長してきたことは売上の安定化に繋がるものと考えております。また、中期的には車載関連、医療機器向けにも注力し、特定分野への販売リスクの回避を図ってまいります。

### セグメント別売上高・営業利益(連結)

(単位：千円)

	売上高	営業利益
水晶製品	3,449,239	438,968
抵抗器	165,672	39,930
インダクタ	86,384	6,376
その他	48,728	18,794
全社又は消去	—	△473,439
合計	3,750,024	30,630

### 水晶製品用途別売上高構成(連結)



デジタルスチルカメラ	22.9%
無線モジュール	16.2%
車載関連	13.0%
デジタルビデオカメラ	9.3%
パソコン本体・周辺機器	8.0%
携帯電話	7.6%
TV	6.7%
AV機器関連	3.1%
AVチューナー	2.6%
医療機器	0.5%
その他	10.1%

## ■ 通期の見通し

今期初めに作成した計画においては、売上高7,788百万円、経常利益657百万円、当期純利益363百万円となっております。しかし、市況の変化や業界の動向を踏まえた上で、当初の計画を達成することが困難であると判断し、2005年10月28日付で右に記したとおりの内容にて修正し、発表させていただきます。当初の計画対比で、売上高2%減、経常利益59%減、当期純利益60%減となり、売上高は微減収に抑えられる見通しですが、利益面では厳しい数値となっております。また、この修正計画を前年度実績と対比すると、売上高1%増、経常利益53%減、当期純利益56%減となり、微増収ながら、やはり減益の見込みとなっております。

販売面においては、携帯電話へのBluetooth搭載が浸透したことにより市場が急速に拡大している無線モジュール向けに対して、当社の強みである超小型水晶製品の拡販を進めてまいります。また、成長を続けるカーエレクトロニクス分野に対しても引き続き販売展開してまいります。液晶TVやプラズマTVといったディスプレイ向けも増加してきており、下半期においても安定した受注が期待できます。加えて、今中間期に利益圧迫の原因となった小型水晶製品の販売数量増加に努めます。

コスト面においては、今後も販売競争激化に向けたコスト削減に努めるべく製造部門の固定費削減、設備生産能力の向上を推進してまいります。また、管理体制の合理化に取り組み、販売費及び一般管理費の圧縮にも努めてまいります。

これらの取り組みにより、可能な限りの利益確保に取り組んでまいります。当社は連結当期純利益の20%を最低ラインとして安定的な配当性向を目標としております。株主の皆様には公約通りの配当を実施できるよう努めるとともに、安定した成長を実現できるよう、全社を挙げて努力してまいります。

### 2006年3月期修正計画

売上高	7,615百万円
営業利益	124百万円
経常利益	271百万円
当期純利益	144百万円

### 新製品情報

#### 表面実装型音叉型水晶振動子 TFX-02



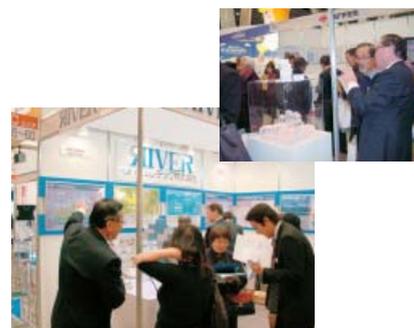
音叉型水晶振動子は、電子機器内部で正確な時を刻む時計機能の基となるものです。TFX-02は当社従来品と比べて22%の小型化を達成し、3.2×1.5×0.8ミリと、業界最小クラス※を実現しました。携帯電話やデジタルカメラなど、ほとんどの電子機器に時計機能が内蔵されています。既に量産を開始したTFX-02は、小型化が進む電子機器において様々な分野での採用が期待されます。

※当社調べ、2005年11月現在

### 「第8回 ノムラ資産管理フェア」に出展しました。

当社製品である水晶デバイスは様々な電子機器に内包されており、普段、人目に直接触れるものではありません。このため、当社製品を実際にご覧いただき、個人投資家の皆様に当社のビジネスをよりご理解いただくことを目的として、2005年12月2日・3日に開催された同フェアに出展いたしました。

両日は代表取締役社長の若尾が自ら先頭に立って当社事業について説明申し上げるとともに、貴重なご意見を多数いただき、大盛況のうちに終了いたしました。今後もこのような機会を設け、個人投資家の皆様と接することができればと考えております。



### 第60期事業報告書のアンケートについて

株主の皆様の声をもとに、今後のIR活動に役立てるべく、第60期事業報告書にてアンケートを実施させていただきました。貴重なご意見を多数いただき、誠にありがとうございました。ここでは、ご質問の中で多かったものの一部について、簡単ではありますがご返答させていただきます。

#### Q. 小型の水晶デバイスが、今後どのような分野で使われるのか知りたい

A. 今期に入り、急速に市場を拡大してきたのが無線モジュール向けの分野であり、携帯電話他のBluetoothや無線LAN機能に主に使われます。現時点で日本国内では無線通信機能を搭載した携帯電話はまだ一部の機種に限られますが、海外で販売されている携帯電話においては一般的な機能となっており、今後は国内販売される機種でも増えてくることが予想されます。また、携帯ゲームにも無線LAN機能を搭載したものが増えてきており、使用される水晶デバイスの数量も増えていくと思われます。中・長期的には医療機器向け、特にカプセル型内視鏡のような小型化が強く求められる分野において使用される数量が増加してくると予想しています。

#### Q. グループ会社の体制はどのようになっていますか？

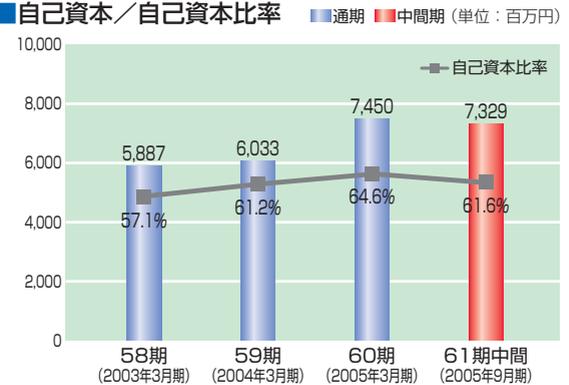
A. 当社は、研究と販売を本社で行い、生産を子会社で行う製販分離体制を採用しております。このため、水晶製品は全て子会社である青森リバーテクノ株式会社にて生産しております。また、シンガポールに販売子会社であるRIVER ELECTRONICS (SINGAPORE) PTE.LTD.があり、日本国内で生産された水晶製品と、マレーシアの製造子会社RIVER ELECTRONICS (IPOH) SDN.BHD.にて生産された抵抗器・インダクタを主に販売しております。台湾にある子会社、台湾利巴股份有限公司では、日本国内で生産された水晶製品を販売するとともに、同社にて生産した電子部品の販売を行っています。

# ■ 財務ハイライト (連結)

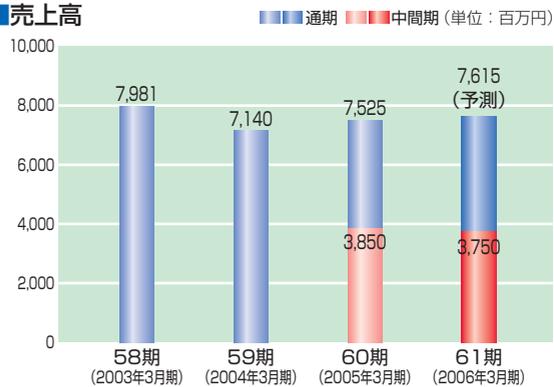
## ■ 総資産



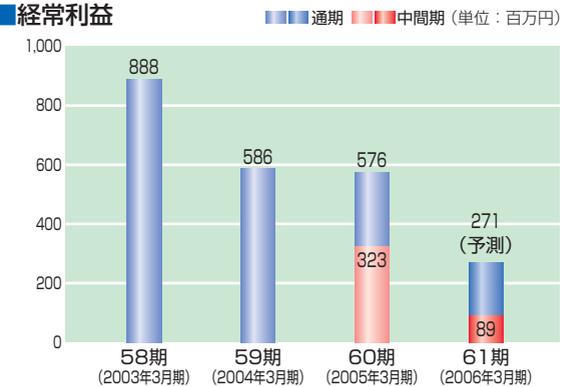
## ■ 自己資本/自己資本比率



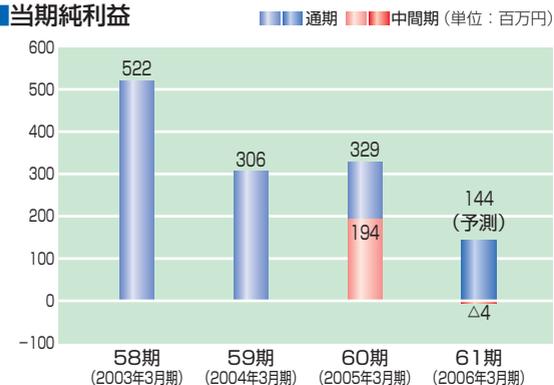
## ■ 売上高



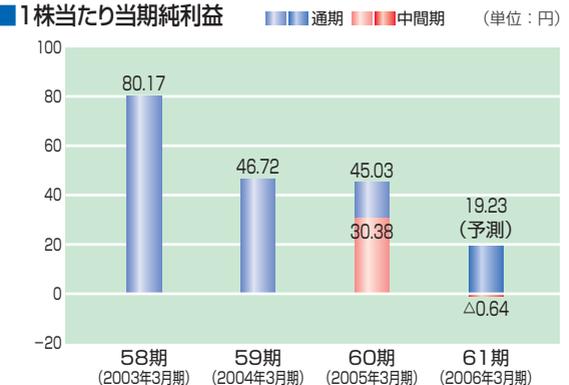
## ■ 経常利益



## ■ 当期純利益



## ■ 1株当たり当期純利益



## 中間連結貸借対照表 (要旨)

(単位：千円)

科目	期別			科目	期別		
	前中間期 (2004年9月30日現在)	当中間期 (2005年9月30日現在)	前期 (2005年3月31日現在)		前中間期 (2004年9月30日現在)	当中間期 (2005年9月30日現在)	前期 (2005年3月31日現在)
<b>資産の部</b>				<b>負債の部</b>			
<b>流動資産</b>	5,723,421	5,274,064	5,593,264	<b>流動負債</b>	3,056,289	3,709,626	3,153,372
<b>1</b> 現金及び預金	2,124,095	1,661,123	2,206,367	支払手形及び買掛金	886,369	1,006,434	842,206
受取手形及び売掛金	2,665,169	2,530,689	2,353,234	1年以内償還予定社債	20,000	20,000	20,000
たな卸資産	750,898	797,705	783,575	短期借入金	400,000	690,056	622,162
繰延税金資産	130,664	154,605	144,482	1年以内返済予定長期借入金	418,612	309,229	418,612
その他	55,543	132,582	108,202	未払法人税等	193,825	67,618	262,766
貸倒引当金	△2,949	△2,641	△2,599	<b>その他</b>	1,137,482	1,616,288	987,624
<b>固定資産</b>	5,744,229	6,615,618	5,930,345	<b>固定負債</b>	799,599	562,376	645,711
<b>有形固定資産</b>	5,296,022	6,248,866	5,524,456	社債	60,000	40,000	50,000
建物及び構築物	1,407,785	1,523,286	1,468,443	長期借入金	524,224	313,995	369,918
<b>2</b> 機械装置及び運搬具	2,481,568	3,058,366	2,735,000	繰延税金負債	43,711	38,521	48,415
工具、器具及び備品	127,975	132,750	112,521	退職給付引当金	54,193	68,800	53,068
土地	625,480	581,056	625,480	その他	117,470	101,060	124,310
<b>3</b> 建設仮勘定	653,211	953,406	583,011	<b>負債合計</b>	3,855,888	4,272,003	3,799,084
<b>無形固定資産</b>	17,080	15,059	16,074	少数株主持分	288,083	296,013	284,233
<b>投資その他の資産</b>	431,126	351,692	389,814	<b>資本の部</b>			
投資有価証券	209,862	162,739	167,303	<b>資本金</b>	1,070,520	1,070,520	1,070,520
繰延税金資産	21,991	21,121	19,998	<b>資本剰余金</b>	957,810	957,810	957,810
その他	199,272	167,830	202,512	<b>利益剰余金</b>	5,498,080	5,476,629	5,633,923
<b>繰延資産</b>	12,795	7,862	10,483	その他有価証券評価差額金	29,307	22,341	27,182
新株発行費	12,795	7,862	10,483	為替換算調整勘定	△219,244	△197,771	△238,660
<b>資産合計</b>	11,480,445	11,897,545	11,534,093	<b>資本合計</b>	7,336,473	7,329,529	7,450,775
				負債、少数株主持分及び資本合計	11,480,445	11,897,545	11,534,093

### POINT 1

現金及び預金が前期末比で545,244千円減少しておりますが、これは主として株式公開に伴う公募増資分を水晶製品生産設備の費用へと充てたためです。

### POINT 3

建設仮勘定が前期末比で370,395千円増加しておりますが、これは主として建設中の水晶製品生産設備が増加したことによるものです。

### POINT 2

機械装置及び運搬具が前期末比で323,366千円増加しておりますが、これは主として水晶製品増産に向けた設備の増強によるものです。

### POINT 4

その他の流動負債が前期末比で628,665千円増加しておりますが、これは主として設備投資増加に伴う設備関係支払手形の増加によるものです。

## 中間連結損益計算書 (要旨)

(単位：千円)

科 目	期 別	前中間期	当中間期	前 期
		(2004年4月1日から 2004年9月30日まで)	(2005年4月1日から 2005年9月30日まで)	(2004年4月1日から 2005年3月31日まで)
売 上 高		3,850,204	3,750,024	7,525,470
売 上 原 価		2,747,651	2,888,084	5,464,581
売 上 総 利 益		1,102,553	861,939	2,060,889
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費		808,632	831,308	1,537,654
営 業 利 益		293,920	30,630	523,234
<b>5 営 業 外 収 益</b>		<b>40,720</b>	<b>78,116</b>	<b>89,702</b>
営 業 外 費 用		11,181	19,561	36,710
経 常 利 益		323,459	89,185	576,226
特 別 利 益		—	11	26,986
<b>6 特 別 損 失</b>		<b>1,705</b>	<b>58,836</b>	<b>32,744</b>
税金等調整前中間(当期)純利益		321,753	30,359	570,468
法人税、住民税及び事業税		180,534	56,222	294,877
法人税等調整額		△51,965	△18,523	△57,150
少数株主利益(△損失)		△935	△2,512	2,777
中間(当期)純利益(△純損失)		194,120	△4,826	329,964

### POINT 5

営業外収益の内訳は、81%が材料屑売却益となっております。これは、製造過程にて発生する材料屑に付着した貴金属を売却したことによるものです。

### POINT 6

特別損失については、「固定資産の減損に係る会計基準」の適用により、56,214千円の減損損失を計上しております。

## 中間連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

(単位：千円)

科 目	期 別	前中間期	当中間期	前 期
		(2004年4月1日から 2004年9月30日まで)	(2005年4月1日から 2005年9月30日まで)	(2004年4月1日から 2005年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー		266,980	246,192	1,037,610
<b>7 投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		<b>△766,112</b>	<b>△45,242</b>	<b>△1,799,403</b>
<b>8 財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		<b>949,450</b>	<b>△245,329</b>	<b>1,006,935</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額		6,947	24,461	△3,825
現金及び現金同等物の増減額		457,265	△19,916	241,317
現金及び現金同等物の期首残高		984,009	1,225,326	984,009
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高		1,441,275	1,205,410	1,225,326

### POINT 7

投資活動によるキャッシュ・フローは、プラス要因の定期預金からの払い戻しとマイナス要因の有形固定資産の取得により、45,242千円のマイナスとなりました。

### POINT 8

財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入金の返済と配当金の支払いにより、245,329千円のマイナスとなりました。

## ■ 単独財務諸表

### 中間単独貸借対照表 (要旨)

(単位：千円)

科目	期別			科目	期別		
	前中間期 (2004年9月30日現在)	当中間期 (2005年9月30日現在)	前期 (2005年3月31日現在)		前中間期 (2004年9月30日現在)	当中間期 (2005年9月30日現在)	前期 (2005年3月31日現在)
資産の部				負債の部			
流動資産	4,579,190	3,819,755	4,311,479	流動負債	1,836,919	1,938,288	1,623,418
固定資産	4,391,404	5,175,189	4,502,126	固定負債	657,653	461,608	524,743
有形固定資産	3,560,610	4,422,210	3,706,837	負債合計	2,494,573	2,399,897	2,148,162
無形固定資産	12,266	9,979	10,945	資本の部			
投資その他の資産	818,528	742,999	784,342	資本金	1,070,520	1,070,520	1,070,520
繰延資産	12,795	7,862	10,483	資本剰余金	957,810	957,810	957,810
資産合計	8,983,390	9,002,807	8,824,089	利益剰余金	4,431,178	4,552,238	4,620,414
				その他有価証券評価差額金	29,307	22,341	27,182
				資本合計	6,488,816	6,602,910	6,675,926
				負債及び資本合計	8,983,390	9,002,807	8,824,089

### 中間単独損益計算書 (要旨)

(単位：千円)

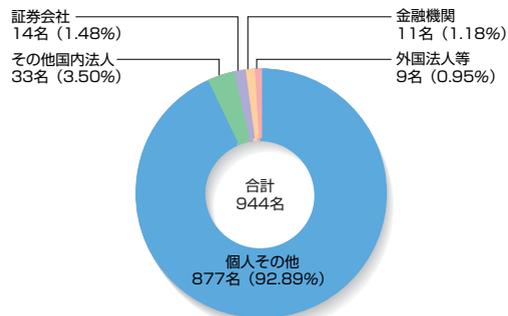
科目	期別	前中間期	当中間期	前期
		(2004年4月1日から 2004年9月30日まで)	(2005年4月1日から 2005年9月30日まで)	(2004年4月1日から 2005年3月31日まで)
売上	高	3,657,600	3,567,733	6,983,528
売上原価	価	2,702,619	2,748,228	5,177,513
売上総利益	益	954,980	819,505	1,806,014
販売費及び一般管理費	費	653,149	666,541	1,245,031
営業利益	益	301,831	152,964	560,983
営業外収益	益	12,598	9,243	96,100
営業外費用	用	9,014	18,155	33,268
経常利益	益	305,416	144,052	623,816
特別利益	益	—	11	26,986
特別損失	失	1,585	54	27,570
税引前中間(当期)純利益	益	303,831	144,009	623,231
法人税、住民税及び事業税	税	154,096	53,408	285,228
法人税等調整額	額	△27,884	6,308	△28,852
中間(当期)純利益	益	177,619	84,292	366,854
前期繰越利益	益	521,164	267,537	521,164
中間(当期)未処分利益	益	698,784	351,829	888,019

## 株式の状況 (2005年9月30日現在)

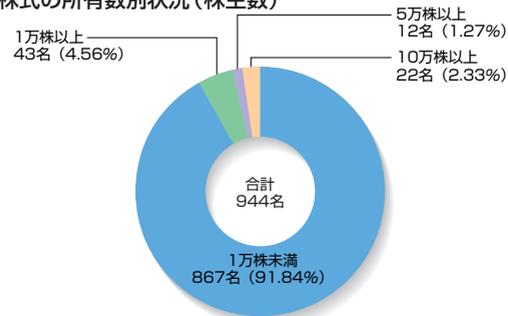
■発行する株式の総数	21,600,000株
■発行済株式の総数	7,492,652株
■株主数	944名
■大株主	

株主名 (上位10名)	当社への出資状況	
	持株数	議決権比率
若光株式会社	873,368株	11.66%
イチエスピーバンクビーエルシーアカウント アトランティスジャパン グロス ファンド	332,000	4.43
株式会社山梨中央銀行	268,000	3.58
若尾 亘	253,758	3.39
野村證券株式会社	227,000	3.03
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	209,000	2.79
持原 和 則	180,000	2.40
持原 ひろ美	168,244	2.25
リバー従業員持株会	160,156	2.14
株式会社みずほ銀行	150,000	2.00

### 株式の所有者別状況 (株主数)



### 株式の所有数別状況 (株主数)



## 会社概要 (2005年9月30日現在)

■設 立	1951年3月9日
■資 本 金	10億7,052万円
■従 業 員 数	120名
■事 業 内 容	水晶振動子、水晶発振器等の電子部品の製造および販売



### 役員

代表取締役社長	若尾 富士男
専務取締役	岩下 功
取締役	浅川 芳孝
取締役	辻 智晴
取締役	秋山 正雄
常勤監査役	江上 年秋
監査役	中津山 準一
監査役	小林 栢弘

### 事業所

本 社	〒407-8502 山梨県韮崎市富士見ヶ丘2丁目1番11号 TEL. 0551-22-1211(代)
東京営業所	〒160-0023 東京都新宿区西新宿4丁目40番14号 TEL. 03-3377-5444(代)
大阪営業所	〒570-0083 大阪府守口市京阪本通1丁目3番2号 新近藤ビル3F TEL. 06-6998-4888(代)
名古屋営業所	〒465-0043 愛知県名古屋市長区宝ヶ丘292番地 藤佳ビル2F TEL. 052-776-9531(代)
宇都宮営業所	〒320-0057 栃木県宇都宮市中戸祭1丁目13番27号 TEL. 028-625-7181(代)

### リバーグループ (子会社の状況)

会社名	資本金	議決権比率	事業内容
青森リバーテック株式会社	千円 50,000	100%	電子部品の製造
台湾利巴股份有限公司	千ニュー台湾ドル 24,000	60	電子部品の製造 及び販売
RIVER ELECTRONICS (SINGAPORE) PTE. LTD.	千米ドル 123	100	電子部品の販売
RIVER ELECTRONICS (IPOH) SDN. BHD.	千マレーシアリング 10,695	60	電子部品の製造

## 株主メモ

決算期 3月31日  
定時株主総会 6月  
基準日 3月31日  
そのほか必要があるときは、あらかじめ  
公告して臨時に定めることがあります。

配当金受領株主確定日

利益配当金 3月31日

中間配当金 9月30日(中間配当を行う場合)

公告の方法 当社のホームページに掲載します。  
<http://www.river-ele.co.jp/>

名義書換代理人 大阪市中央区北浜四丁目5番33号  
住友信託銀行株式会社

同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番4号  
住友信託銀行株式会社 証券代行部

(郵便物送付先)

(電話照会先)

〒183-8701

東京都府中市日鋼町1番10

住友信託銀行株式会社 証券代行部

(住所変更等用紙のご請求)

☎0120-175-417

(その他のご照会)

☎0120-176-417

インターネットホームページURL

<http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html>

同取次所 住友信託銀行株式会社本店および  
全国各支店

上場証券取引所 JASDAQ

証券・銘柄コード 6666

## 《アンケートにご協力ください》

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、アンケートを実施させていただくことといたしました。お手数ではございますが、以下の方法によるアンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。

<https://www.e-kabunushi.com>

アクセスコード 6666



携帯電話からもアクセスできます。QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使いの方は、上のQRコードからもアクセスできます。

アンケート実施期間は、本中間事業報告書がお手元に到着してから約2ヶ月間(2006年2月28日まで)となりますのでお早めのご回答をお願いいたします。

※本アンケートは、株式会社エーツメディアの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。

(株式会社エーツメディアについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>)

※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただき、事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

アンケートのお問い合わせ

「e-株主リサーチ事務局」

TEL : 03-5777-3900

MAIL : [info@e-kabunushi.com](mailto:info@e-kabunushi.com)

(ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝を呈呈させていただきます)

## ホームページのお知らせ



当社に関する最新動向や情報をお伝えしております。  
ぜひ一度ご覧ください。

URL <http://www.river-ele.co.jp/>